

【プレスリリース】

## 来春で震災から3年 被災地から学生80名が集結 東北の未来への提言 「ビヨンドトゥモロー東北未来リーダーズサミット2013」開催

2013年10月7日

一般財団法人 教育支援グローバル基金

一般財団法人教育支援グローバル基金（東京・渋谷）は、東日本大震災を体験した若者のリーダーシップ教育支援事業「ビヨンドトゥモロー」の一環として、第三回目となる「ビヨンドトゥモロー東北未来リーダーズサミット2013」を開催いたします。

本サミットは、東日本大震災が起きた2011年秋に初めて開催以来、今年で第3回目を迎えます。来年で震災から3年を迎えようとするこの時期に、東北被災地のニーズを反映させた復興計画のあり方、東北の未来のビジョンについて、具体的な提言を発案し、最終日に、各領域から集まるゲストの前で発表いたします。また、プログラム期間中は、様々な領域で活躍中の若手リーダーが「提言アドバイザー」として学生と時間を過ごし、提言作成にむけたアドバイスだけでなく、将来のキャリアや生き方についても共に語り合う機会を提供します。

最終日の提言発表会およびプログラム開催中にご取材いただけますので、ご取材ご希望の方は、別紙お申込みフォームに必要事項をご記入の上、お申込みくださいますようお願い申し上げます。

### ◆ビヨンドトゥモロー東北未来リーダーズサミット2013 概要◆

日時： 2013年10月12日（土）～14日（月・祝） （開催地：東京）

参加者： 岩手・宮城・福島のいずれかの県で東日本大震災を経験した高校生・大学生総計約80名。厳正な選考により、震災を乗り越えて広い世界・社会において活躍するリーダーとしての高い資質を持つと考えられる学生たちを選抜。震災後に海外に留学を実現した2名も一時帰国して参加。参加学生の多くが、家族や家を失ったり現在も避難中であったり、震災により大きな被害を受けています。

趣旨： 2泊3日の合宿形式のプログラムを通し、様々な領域で活躍するリーダーたちによる助言の下、東北の復興のあり方について、グループ毎に提言をまとめ、その提言は、最終日に、政治・行政・ビジネス・メディア・NGOなど各方面のリーダーたちの前で参加学生自らによって発表されます。

提言テーマ： 「地域参加型の復興」をテーマに、チーム毎に「魅力ある街づくり」「東北からの発信」「世代を超えた協働の場」「事例研究：防潮堤建設計画」について、具体的な提言をまとめます。

届け先： 学生たちがまとめた被災地復興の提言は、最終日の提言発表会で発表される他、後日、安倍昭恵首相夫人に届けられます。

提言アドバイザー： 下記12名の若きリーダーたちが、学生たちと共に提言を作成し、将来のビジョンについて考え、自分たちだからこそのことのできるアクションについて議論します。

（五十音順・敬称略）

岩瀬大輔	ライフネット生命保険代表取締役社長
岡島悦子	株式会社プロノバ 代表取締役社長
籠島康治	株式会社電通 ソーシャル・デザイン・エンジン クリエイティブ・ディレクター
杉山大輔	株式会社インターリテラシー 代表取締役社長/CEO
照屋朋子	NGO ユイマール 代表

ハリス鈴木絵美	チェンジ・ドット・オーグ 日本代表
原聖吾	マッキンゼー
藤沢久美	シンクタンク・ソフィアバンク 代表
船橋力	株式会社ウィル・シード ファウンダー・取締役会長
堀田真代	ソフトバンク株式会社
松古樹美	野村ホールディングス株式会社 コーポレートシティズンシップ推進室長
矢部寛明	一般社団法人アショカ・ジャパン ユースベンチャープログラムリーダー

◆参加者プロフィール◆

14日（月・祝）の閉会式では、下記3名の生徒代表が、スピーチを行います（メディアの方の閉会式へのご参加は、別紙のご案内をご覧ください）。

【佐藤迅（さとう・しゅん） 宮城県農業高等学校 3年（宮城県・仙台市出身）】

津波によって母と家を亡くす。母の死に自分を責め続け、心を閉ざす日々が続いた。2013年夏にTOMODACHIサマー2013ビヨンドトゥモロー米国プログラムに参加し、震災の話を共有し、多くの人々が共感してくれたことが自信となり、将来は、人が自分の気持ちを伝えることの手伝いをできる人間になりたいと考えるようになった。将来は、公務員となり、地域の人々が笑顔になれるような仕事をしたいと考えている。

【佐久間楓（さくま・かえで） 東北芸術工科大学 1年（宮城県・石巻市出身）】

津波で母を亡くす。震災直後の絶望の中、国内外からの支援が届いたことに感謝し、支援してくれた人々に恩返しをしたいという気持ちが強まった。震災後、ロシアを訪問した際、被災地で救助活動をした方々に挨拶をしたが、思いを伝える難しさを痛感。「もう1度海外に向けてきちんと伝えたい」と思うようになった。将来は震災についての体験や思いをインタビューして本にまとめ震災について語り継ぐ役割を担いたいと考えている。

【千葉真英（ちば・まさひで） 慶應義塾大学総合政策学部1年（岩手県・大船渡市出身）】

大船渡にて被災。津波によって母親と祖母を亡くし、家も流された。多くの命が犠牲になった中で自分は助かったという経験から、将来は都市計画という観点から復興に貢献したいと一度は工学部に進学するが、やはり真の地域復興には、人づくりが不可欠であると考え、将来は人材育成に関わりたいと、慶應義塾大学を再受験し、合格。地域の人々が自ら課題を解決し、人々が住みたいと思える社会の構築こそが地方の活性化を可能にできると考え、そのような人材の育成に尽力したいと考えている。



◆スケジュール◆

日時	内容	場所
12日（土）	オリエンテーション・自己紹介・体験共有	国立オリンピック記念 青少年総合センター （参宮橋）
13日（日）	ディスカッション（現地のニーズの把握と課題の抽出、未来の東北のビジョンの策定）	
	外部講師へのインタビューセッション 提言プレゼンテーション準備	
夜	夕食会	東京オペラシティ （初台）
14日（月・祝） 午前	プレゼンテーション練習 閉会式・提言発表会 （特別ゲストをお迎えし、学生を含め150名ほどの会となります）	八芳園（白金）

※取材対象日は14日（月・祝）ですが、他の日に取材をご希望の場合、お問い合わせください。

ご参考) 昨年 2012 年の東北未来リーダーズサミットの様子は下記よりご覧いただけます。

<http://beyond-tomorrow.org/program/past-program/tfls2012/>

◆参加者在籍高校一覧（順不同）◆

岩手県	宮城県		福島県	東京都
一関工業高等専門学校	石巻北高等学校	仙台東高等学校	会津高等学校	淑徳高等学校
一関第一高等学校	石巻好文館高等学校	宮城学院高等学校	安積高等学校	墨田川高等学校
岩谷堂高等学校	石巻商業高等学校	宮城県農業高等学校	いわき総合高等学校	
大槌高等学校	石巻市立女子高等学校	宮城第一高等学校	福島工業高等専門学校	神奈川県
大船渡高等学校	石巻西高等学校		双葉翔陽高等学校	横浜清陵総合高等学校
釜石高等学校	気仙沼高等学校		湯本高等学校	
高田高等学校	気仙沼西高等学校			沖縄県
盛岡第一高等学校	塩釜高等学校			那覇西高等学校
盛岡第二高等学校	志津川高等学校			
盛岡第三高等学校	仙台育英学園高等学校			海外（スイス）
宮古高等学校	仙台高等専門学校			Leysin American School
宮古商業高等学校	仙台第一高等学校			St. George's School
山田高等学校	仙台二華高等学校			

◆メディア掲載実績◆

（新聞）JAPAN TIMES、朝日新聞、いわき民報、河北新報、岩手日報、三陸新報、読売新聞、福島民友

◆関係団体◆

主催：一般財団法人 教育支援グローバル基金

協力：ジャパン・ソサエティ

◆ビヨンドトゥモローとは◆

「ビヨンドトゥモロー」は、東日本大震災で被災した若者がグローバルに活躍するリーダーへと成長するための支援を目的とした、包括的なリーダーシップ支援事業です。2011年及び2012年10月には、「東北未来リーダーズサミット」、2013年8月には「ビヨンドトゥモロー夏季グローバル研修」を開催、被災地からリーダー候補を輩出するための取り組みを行っています。また、奨学金提供及びリーダーシップ教育を提供する「ビヨンドトゥモロー・大学スカラシップ・プログラム」「東北未来フェローズプログラム」「ビヨンドトゥモロー高校留学プログラム」を運営しています。

（ウェブサイト：<http://www.beyond-tomorrow.org>）

【問い合わせ先】一般財団法人教育支援グローバル基金 担当：山内  
TEL：080-7716-4884 e-mail：[info@beyond-tomorrow.org](mailto:info@beyond-tomorrow.org)

以上

\*\*\* 事業名「ビヨンドトゥモロー／BEYOND Tomorrow」には、「明日を超えて」という訳の通り、中長期的な視野から未来を担う人材の育成を願う意味がこめられています \*\*\*